

Title	シニア研究者・開発技術者の人材活用方策：IEEEプロフェッショナル制度の試み(人材問題 (2))
Author(s)	仲野, 久利; 小林, 俊哉
Citation	年次学術大会講演要旨集, 21: 789-791
Issue Date	2006-10-21
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/6536
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

シニア研究者・開発技術者の人材活用方策 — IEEJ プロフェッショナル制度の試み

○仲野久利, 小林俊哉 (北陸先端科学技術大学院大)

1. はじめに

シニア研究者・技術者の人材活用方策として、社団法人 電気学会は、IEEJ プロフェッショナル制度を平成17年4月から開始した。IEEJプロフェッショナル(以下、IEEJ-Pという)とは、電気学会に所属し、主に、大学を退官された方や企業を退職された高度な知識・技術を保有したシニア研究者・技術者に、電気学会の審査をもって、付与される称号である。IEEJプロフェッショナル制度は、IEEJ-Pの称号をもったシニア研究者・技術者を活躍の場を提供する仕組みである。ここでは、本制度の紹介および本制度にて認定された人材の特性調査結果について報告する。

2. IEEJプロフェッショナル制度について

2.1. 背景

日本の人口構成は、少子高齢化を示している。¹⁾この条件下において、今後わが国が「科学技術創造立国」を推し進めるためには、シニア研究者・技術者の知識やスキルを社会的に役立てていくことが重要な課題となる。²⁾ 現状、電気学会には、25,141名(2003年度)の会員がおり、その中で55歳以上の会員は、約3割をしめている。その中には、専門知識や技術を保有したシニア研究者・技術者が存在する。また、電気学会の調査によると、会員576名のアンケートにおいて、90.7%の方が自分の知識・技術をいかせる活動への参画に興味をもっている。本アンケート回答者で50歳以上の人は、67.2%である。³⁾ このような社会背景と会員の要望に基づき、シニア研究者・技術者に活躍の場を提供すべく本制度の検討がスタートした。

2.2. 制度の仕組み

電気学会会員の中で、IEEJ-Pの称号付与を希望するシニア研究者・技術者は、職務経歴・実績等を所定の申請用紙に記入の上、電気学会に申請する。電気学会は、その申請に対して審査を行う。電気学会は、審査結果によりIEEJ-Pの称号付与を認定する。平成18年3月8日時点で66名のシニア研究者・技術者がIEEJ-Pの認定を受けている。IEEJパートナーは、クライアントからのリクエストをお伺いし、そのリクエストに対応できるIEEJ-Pの称号を付与されたシニア研究者・技術者を紹介する。IEEJパートナーは、クライアントから業務委託費用を受ける。IEEJパートナーは、シニア研究者・技術者に役割に応じた費用を支払う。

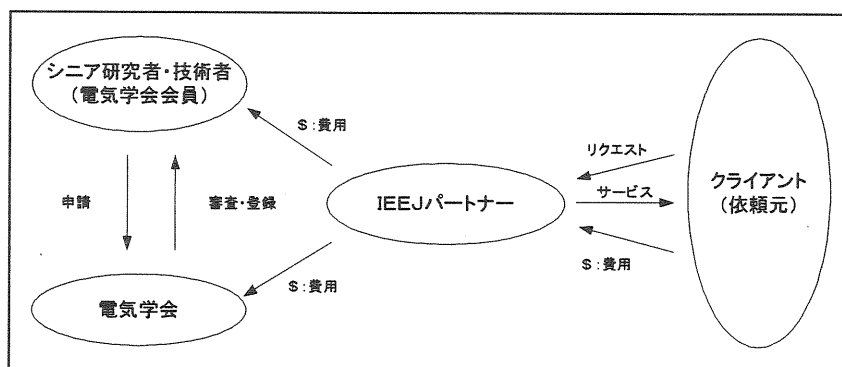


図 1 IEEJ-P 制度の仕組み

IEEJ-Pの称号付与認定資格には、会員在籍期間が10年以上であること、指導・研究・その他実績があること、活動に強い熱意をもっていることなどがある。

IEEJパートナーは、シニア研究者・技術者のサポートを求めるクライアントを探す、いわゆる営業機能を担う。IEEJパートナーは対象とする部門の知識をもち、クライアントの要望を正しく理解し、その要望をまとめてシニア研究者・技術者に伝えることができる民間企業が担当している。また、IEEJパートナーは、クライアントとの費用・スケジュールの調整も担当する。シニア研究者・技術者の弱みとする、営業機能を補完する役割となる。シニア研究者・技術者は、IEEJパートナーを介さずに活動の場を探すこともできる。

クライアントには、民間部門、公的部門とわけて考えると、民間部門では、一般企業が、公的部門では、学校、公官庁などが上げられる。

3. IEEJ-P 認定シニア研究者・技術者の特性

IEEJ-Pの認定を受けているシニア研究者・技術者の中でデータが得られた34名の方の属性データを調査した。

3.1. 年齢別特性

年齢別に見ると、66～70才の方が、35%、次いで、61～65才の方が21%となっていることが分かった。(図2参照)

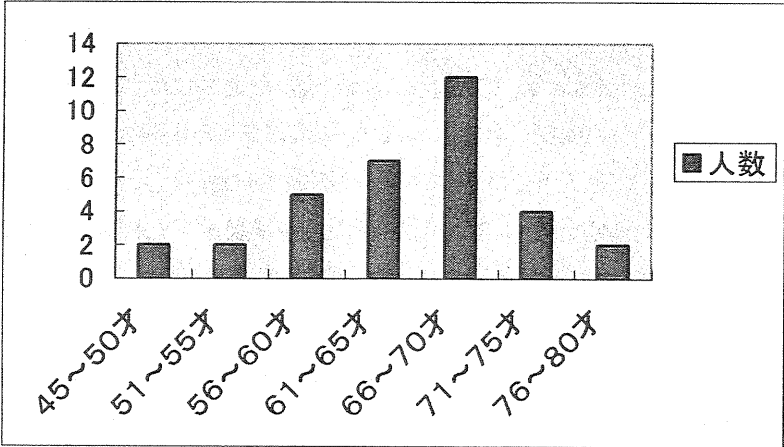


図 2 IEEJ-P 認定シニア研究者・技術者の年齢別人数 (N=34)

3.2. 取得資格

取得資格を見ると、表1に示すように、博士号取得者が53%、次いで技術士取得者が24%いることが分かった。

表 1 IEEJ-P認定されたシニア研究者・技術者の取得資格 N=34名

取得資格	人数 (%)
博士号	18人(53%)
技術士	8人(24%)
第1種電気事業主任技術者	6人(18%)

3.3. 希望する活動形態

希望する活動形態を見ると、企業向けコンサルティングが 22 人の方が、次いで、大学非常勤講師を 15 名の方が希望している。小中高校生向け出前講義は 6 名の方が、また青少年向け理科教室は 2 名の方が希望している。

表 2 IEEJ-P 認定されたシニア研究者・技術者が希望する活動形態

希望する活動形態	希望件数
企業向け技術コンサルティング	22
大学非常勤講師	15
社員向専門技術研修講師	14
セミナ講習会の講師(専門家向け)	13
セミナ講習会講師(一般向け)	13
セミナ講習会講師(青少年向け)	11
経営層向け技術研修の講師	7
学会主催特別講演講師	7
出前講義(小中高校生向け)	6
青少年向け理科教室	2
特許出願申請書の書き方等指導	2
教師向け実験指導	1

N=34、複数選択

4. 調査結果の考察－IEEJ-P 認定シニア研究者・技術者の人物像と今後の課題

調査結果から、IEEJ-P 認定シニア研究者・技術者の特性は、概ね次のような人物像であることが分かった。

①55～70歳ぐらいの年齢であり、②博士号、技術士等高度な資格を保有した人材であり、③主に、企業向けコンサルティング活動、大学非常勤講師など高度な知識が活かせる活動することを希望している。

今後は、このような特性を有する人材の活躍の場探し、あるいは場作りが今後の課題となる。最近、小学校の理科の実験で教員を支援する人材が求められており、その役割を退職した研究者や技術者に期待されている。⁴⁾このような社会ニーズに対して、今回の調査結果では、IEEJ-P 認定シニア研究者・技術者は、その役割を希望する人が少ないということも分かった。社会ニーズとシニア人材の特性との適合場の発見と創造が課題であろう。

引用文献・参考文献

1)総務省統計、高齢者の人口・推計: <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.htm>

2)高柳誠一、小林俊哉、「高齢化・人口減少社会におけるシニア研究者・開発者に望まれる役割」、研究・技術計画学会、2004 年年次大会

3)IEEJ「プロフェッショナル制度」サービス導入に関するアンケート集計結果:
http://www.iee.or.jp/honbu/ieejpro_kekka.pdf

4)「サイエンス・パートナー・シッププロジェクト」 <http://rika.jst.go.jp/spp/index.htm>